

琵琶湖を戻す会の活動紹介

○藤田 修・高田 昌彦

(琵琶湖を戻す会)

琵琶湖を戻す会は2000年の設立当初より、琵琶湖の外来魚問題を解決するには、まずは一人でも多くの皆さんにこの問題を知ってもらうことが大切と考え、様々な活動を通して外来魚問題の啓発に取り組んできました。活動の基本は「外来魚駆除大会」ですが、それ以外にも様々なイベントを行っています。

外来魚駆除大会

琵琶湖の外来魚の現状を知るには実際に釣ってもらうのが一番わかりやすいと考え、参加者には釣りで外来魚を捕獲してもらっています。釣り方も、ルアーやリールを使わずに、のべ竿に玉ウキを付けミミズをエサに釣ると言う、かつての雑魚釣りの釣り方で釣りながら、外来魚しか釣れない現状を体感してもらっています。ここでは、1尾でも多く駆除することより、1人でも多くの理解者を増やすことを目的としています。



琵琶湖外来魚駆除の日

“5月最終日曜は琵琶湖外来魚駆除の日”をキャッチフレーズに、開催しています。釣りによる「外来魚駆除大会」にくわえて、「地引き網体験」、「外来魚解剖教室」、「在来魚と外来魚の比較展示」などのイベントを用意し、楽しみながらも琵琶湖の外来魚の現状を体感してもらっています。コロナ禍前までは「琵琶湖の幸の試食会」として湖魚料理を味わってもらっていました。



エリ漁見学&地引き網体験

夏の琵琶湖で漁師さんの船にのって、漁師さんがおこなうエリ漁（定置網漁）を船上から見学し、網に多くの外来魚が入り、網の中でも捕れた在来魚が食べられている現状を知ってもらっています。また砂浜で地引き網も体験してもらい、捕れた魚の解説などをおこなっています。希望者には捕れた魚を持ち帰って味わってもらっています。



外来魚情報交換会

外来魚問題は琵琶湖に限ったことではなく、全国各地で同じ悩みや苦勞を抱えています。その各現場で行われている外来魚対策や知識、経験を持ち寄って情報交換し、参加者どうしが交流できる場を作りたいと考えて2006年から始めました。“その情報、共有しなきゃもったいない”をキャッチフレーズに、日本唯一の水辺の外来生物の情報が集まる場として開催しています。

